

【報道関係各位】

2009 年 3 月 31 日
ニフティ株式会社
株式会社サンケイリビング新聞社
株式会社リビングくらし HOW 研究所

**主婦を対象とした携帯サービス『シュフモ』が「不況と家計」調査を実施
～「不況が家計に影響」は9割強、「収入減」が不安な家庭が半数以上
支出を抑える費目は「食費」「レジャー・外食・趣味」～**

主婦を対象とした携帯電話向け無料サービス「シュフモ」(<http://shuf.jp/>)とPCサイト「えるこみ」(<http://www.lcomi.ne.jp/>)では、現在の厳しい経済状況が家計に及ぼす影響と家計を守る対策についての調査を行ない、5,923人の主婦から回答がありました。

【調査結果の要旨】

＜経済不安と家計への影響＞

- 今後の経済状況に不安を「感じている」回答者が全体の97.4%
- このところの不況が家計に影響していると「感じている」回答者が全体の91.1%
- 回答者全体の5割以上が具体的に「収入減」の不安を持っている。
⇒収入が「すでに減った」「減る予定」の主な理由（フリーアンサー）では、
「仕事が減った」「ボーナスカット・減額」「給料カット・減額」「会社の業績の悪化・経営不振」「残業・残業代カット」などが挙げられた。

＜家計の管理と収支改善＞

- 家計の収支改善、「すでに取り組んでいる」44.0%。
⇒家計改善をしている、したい人が選んだ改善方法トップは「支出を減らす」(66.2%)
⇒支出を抑える費目上位は「食費」(69.5%)、「レジャー・外食・趣味」(68.1%)など

(調査結果を見ての識者コメント)

取捨選択の知恵が試される時代

経済ジャーナリスト 荻原博子さん

今後の経済に不安を感じている人が97.4%、これはもっともな数字です。今後は家計にも大きな影響が出てきますよ。大切なのはその状況が来ても大丈夫なように手当てをしておくことです。

まずは、最低年収の1年分は現金で貯蓄しておくこと。収支改善のために支出を抑えることを考える人が最も多いですが、家計管理の手始めに、借金を手当てしましょう。住宅ローン、車のローン、キャッシングなど借入をすべて書き出し、金利の高いものから優先的に返済していきます。保険の見直しも効果的です。比較的、大きな固定の支出から見直して、あとは日々の節約を心がければ、どうにか暮らしていけるものです。

支出を見直したら、次は収入を増やす手立てを。データでは収入を増やすことを考えている人のうち、「自分が仕事を増やす・始める」という回答が81.2%。まずは、働く感覚がつかめるまでは、自分ができるところから始めて。また、社会人の子どもが家にいる場合は、家計費を入れてもらうなど、家族で乗り切る知恵を出し合いましょう。

この時期、自らの暮らしの中で必要なもの、必要でないものを見極め、取捨選択していく知恵が試される時代なのかもしれませんね。

＜経済不安と家計への影響＞（サマリー）

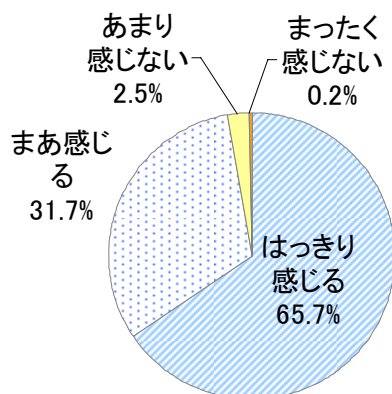
○今後の経済状況に不安を「感じている」主婦は 97.4%[グラフ①]。 また、このところの不況が家計に影響していると「感じる」人は 91.1%に及びます [グラフ②]。 また別の調査では「収入に影響を感じる」という人は 73.8%もしました

○収入に影響を感じる人のうち、「前年から見てすでに減った」「今後減る予定」「減りそうだ」と、具体的な「収入減」の不安を持っている人は 77.8%にのぼり[グラフ③]、これは回答者全体でみても 5 割を超えています

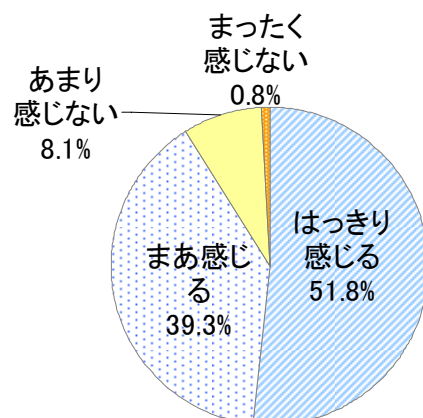
○収入の差額では、年収の 5%未満と、5%以上 20%未満がほぼ 1/3 ずつを占めますが、25%以上という人も 9.3%いました[グラフ④]

○収入が「すでに減った」「減る予定」の主な理由について、フリーアンサーの回答を見ると、「仕事が減った」「ボーナスカット・減額」「給料カット・減額」「残業・残業代カット」などが目立ちました

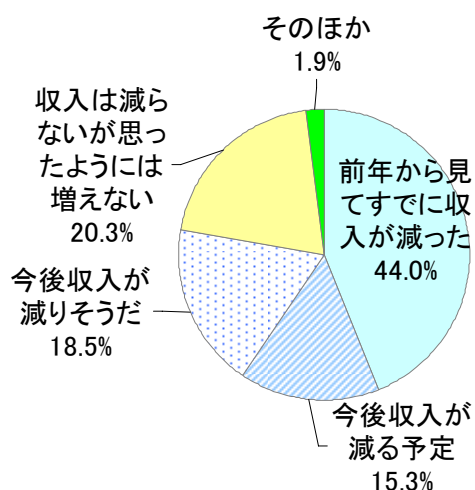
今後の経済状況について、不安を感じますか？
(単一回答) [グラフ①] (n=5917)



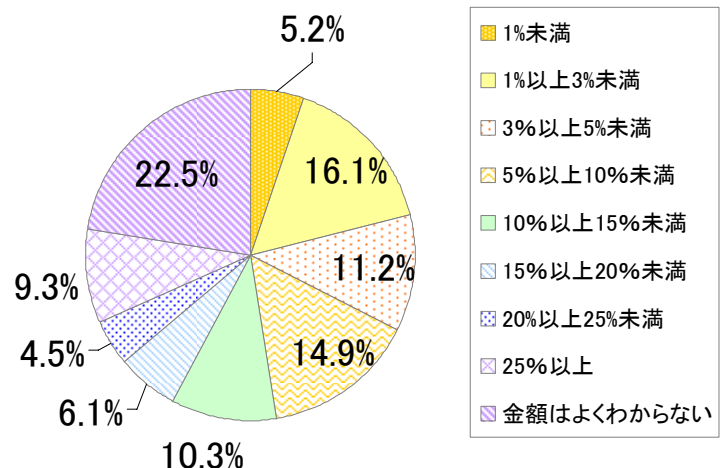
このところの不況の、家計への影響を感じますか？ (単一回答)
[グラフ②] (n = 5914)



(収入の面で感じると回答した人に)
内容について近いものを選んで
(単一回答) [グラフ③] (n=3968)



(「すでに減った」「減る予定」と回答した人に)
年間の差額は年収の何%にあたりますか？ (単一回答)
[グラフ④] (n=2392)



<家計の管理と収支改善> (サマリー)

○家計の収支改善について「すでに取り組んでいる」人は 44.0%でした [グラフ⑤]

○すでに「家計改善をしている」「これからしたい」という人が選んだ改善の内容は「支出を減らす」が 61.2%と多数派でした

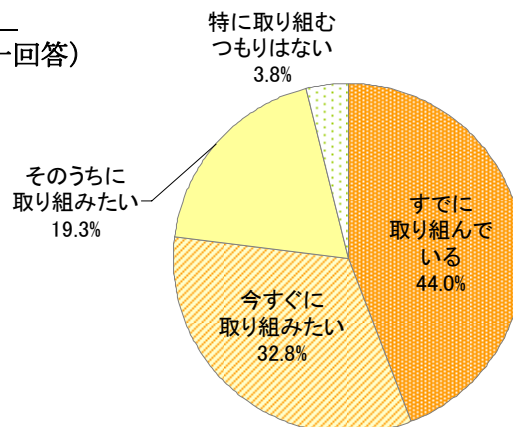
○「支出減」について具体的な項目を聞いたところ、6割以上の人が「食費(外食以外)」「レジャーや外食、趣味」「衣服・ファッション・美容」の項目での支出減を選びました [グラフ⑥]

○実際に収支を改善した人の成功ポイント

- ・とにかく支出は控える。迷った時は購入しない。(49 歳)
- ・やはり、保険料の見直しは必要です。子供が産まれたら見直すといいと思います。後は外食をしない事ですね。面倒でも簡単なものでも作る事にしています (30 歳)
- ・外食の回数を減らし家での食事を増やした。外食に行く時はクーポンの使えるお店に行くように。(32 歳)
- ・電気はまめに消す、水道も出しっぱなしにしない、ガスストーブも部屋が暖まったら消す、旅行などは、ネットなどで格安な物を探すなど。(51 歳)

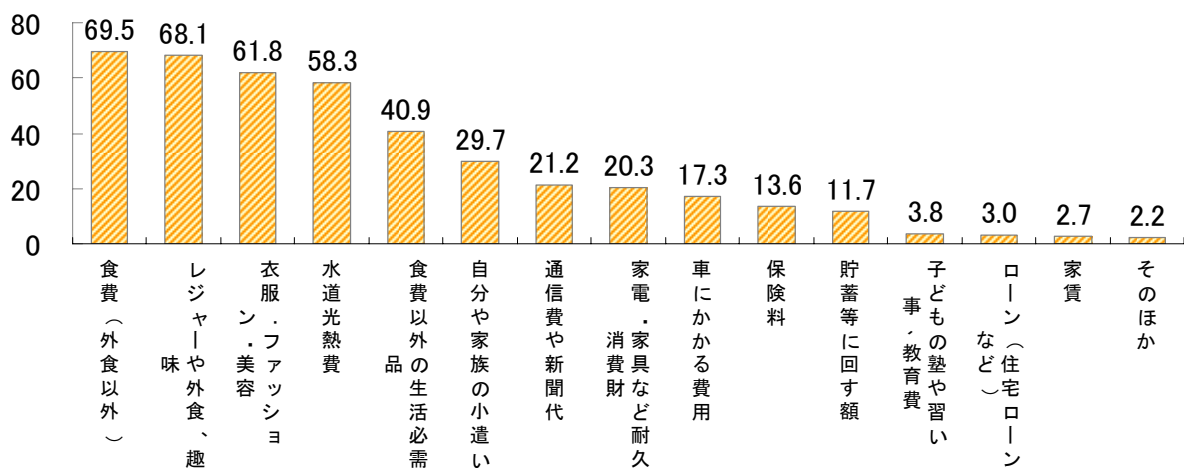
家計の収支改善への取り組みについて、 近いものを選んでください。(単一回答)

[グラフ⑤] (n=5882)



(支出減への対応として) どの部分を減らします(した)か? (複数回答)

[グラフ⑥] (n=3453)



【調査概要】

調査方法 WEBアンケート

①携帯電話向け無料サービス「シュフモ」②ウェブサイト「えるこみ」にアンケートフォームを掲出。

調査期間 ①2009年2月24日(火)～3月1日(日)②2月26日(木)～3月1日(日)

有効回答人数 <既婚女性のみ> 計 5,923人(①4,046人、②1,877人)

※本調査の結果レポートはリビング暮らしHOW研究所ホームページ

(<http://www.kurashihow.co.jp/>)に掲載しているほか、

専門家と主婦による「家計ピンチのりこえマニュアル」を「えるこみ」

(<http://www.lcomi.ne.jp/>)で公開中です。

<「シュフモ」概要>

- 会 員 数 : 19万人(2009年3月31日現在)
- U R L : <http://shuf.jp/> (携帯電話から利用)
- 利用料金 : 無料 (※別途、携帯電話のパケット料金がかかります。)
- 主な内容 : 主婦を対象とした携帯電話向け無料サービス
 - ・登録会員全体の約92%が女性
 - ・年代別利用者比率 20代(30%)、30代(40%)、40代(21%)
 - ・「特売情報」全国のスーパーが配布するチラシから特売商品の価格情報を選んで提供
 - ・「家事」 毎日の献立づくりのヒントとなる約6,000のレシピ情報を提供
 - ・「家計」 ファイナンシャルプランナーによる家計診断コラム
 - ・「地域情報」地域のショッピング・イベント・クーポン情報など

<「えるこみ」概要>

- メール会員 : 約12万人(2009年3月31日現在)
- U R L : <http://www.lcomi.ne.jp>
- 主な内容 : 主婦を対象としたフリーペーパー「リビング新聞」公式サイト

以 上

●本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先

ニフティ株式会社 広報・宣伝チーム 吉富

Tel : 03-5471-3526 / Fax : 03-5471-5393 E-mail : pr@nifty.com

株式会社サンケイリビング新聞社 コーポレートコミュニケーション室 杉山

Tel:03-5216-9222 / Fax:03-5216-9258 E-mail:cc@sankeiliving.co.jp

株式会社リビング暮らしHOW研究所 藤田・近藤

Tel:03-5216-9420 E-mail:info@kurashihow.co.jp

※製品名などは一般に各社の商標または登録商標です。